

## アドバイザー4名との会議を実施

2021年10月、2021年度アドバイザー会議にて本年度前半の活動報告を行ない、4名のアドバイザーから2022年度活動計画案へのアドバイスをいただきました。

参加いただいた沖大幹さん、古賀邦雄さん、陣内秀信さん、鳥越皓之さんからは、来年度の機関誌テーマ案に対して「コロナ後の社会の変化を表層だけでなく、変化の要因を突き詰めて考えていくと、その背景に『文化』があったりする」「文学や芸術だけでなく、工業製品にも文化はあると思う」など、水の文化センターらしさへの捉え方に対して、さまざまな視点から高い視座の助言をいただきました。

アドバイザーの先生方の言葉をしっかりと咀嚼し、2022年度テーマに磨きをかけていきます。来年度の機関誌にご期待ください！



ミツカン東京ヘッドオフィスの大会議室で行なったアドバイザー会議

HPで公開中!

## 今年も生活意識調査を実施しました

毎年恒例の「水にかかわる生活意識調査」を6月に実施しました。今年で27回目となります。

節水状況や水道水の得点評価など継続調査の設問に加え、今年は飲み水としての水に対する意識や地球環境への意識の変化を見る趣旨から、過去に調査していた該当設問を再調査し、10年前（一部20年前）との比較も行ないました。

結果をまとめたレポートはホームページで公開中です。ぜひ活用ください。

<https://www.mizu.gr.jp/chousa/ishiki/2021.html>



## 「脱炭素社会を水から考える」社内講演を開催



173名の社員が参加したオンライン講演（左）。講師を務めた沖大幹さん（右）

2021年7月下旬、社内向けオンライン講演「脱炭素社会を水から考える～食品メーカーにできること～」を開催いたしました。

講師には、当センターのアドバイザーであり、東京大学大学院工学系研究科教授の沖大幹さんをお招きし、「日本は水が豊かな国なのではなく、長い時間をかけて水インフラを整えたこと、また食糧の形で世界各地の水を輸入していること」や、「脱炭素の実現には、『他者・他社』と連携してトータルで考える広い視野をもつことが大切であること」など、視座を高めるご講演をいただきました。

「未来ビジョン宣言」を掲げる食品メーカーの一員として、何をすべきなのかを一人ひとりが改めて考えるよい機会となりました。

### 機関誌『水の文化』制作について

ミツカン水の文化センターで発行しております機関誌『水の文化』69号につきましては、感染防止対策を徹底し、かつパソコンのWEBカメラも用いて取材活動を行ないました。取材先の皆さまには、顔写真撮影に関してマスクを外していただくなどのご協力をお願い

いたしました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、ご好評いただいております連載「食の風土記」はやむを得ず休載といたしました。70号以降も感染防止対策を徹底したうえで、機関誌『水の文化』を制作してまいります。

## 水の文化 Information

### ■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

### ■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<https://www.mizu.gr.jp/>

### ■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

### ■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中

25年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご利用ください。

## 皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』69号について、アンケートにご協力ください。  
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<https://www.mizu.gr.jp/form69.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて  
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX：03-6784-3056

メールアドレス：mizubun@mizu.gr.jp

### 編集後記

若い世代が自身の意見を述べる際に、普通に相手への感謝や尊敬の念を織り込んでいることに感心させられる。これは彼らを取り巻く様々な環境によって育まれた結果なのだろう。相手の身になることが当たり前に行えるこの世代であれば、これまで難しいとされた変革を成し遂げられるのではと、期待が膨らまずにはいられない。(五)

今回、複数の高校に取材させて頂いたが、陰には彼らを手導く先生方がいらつしやり、その振る舞い・お考えに感銘を受けた。「一緒に悩み、ともに解決策を考える・」私たちが先行世代・親世代が、Z世代以下の若者たちに行えることは、まさにこれではないかと感じた。子育ても然り。公私ともに、この学びの実践を目指したい。(松)

私はZ世代と呼ばれるより若干早く生まれたが、自分と歳の近い学生がこんなにも「水」や「環境問題」と真正面から向き合っているというのに、ただ驚きを隠せなかった。そして、どのページに写る学生も輝いて見えた。おそらく世間ではZ世代と呼ばれるであろう私も、その名に恥じない行動ができるよう、今自分を見つめ直したい。(鈴)

Recall Japanの記事を読んで、ペットボトル飲料と水道水の環境負荷に大きな違いがある事を知りました。出社時に毎日購入していたミネラルウォーターをやめ、自宅で淹れたお茶をマイボトルに入れて持ち歩き始めました。環境負荷を少しでも少なくと思って始めましたが、思いがけずかなり節約になり、お小遣いが増えて喜んでいきます。(飯)

デザインを学んでいた大学時代にPCが導入され始め、図面やパースも手描きからCGへ変化しました。操作に四苦八苦しながらも、技術の進歩で新しい表現ができることにワクワクしたものだ。そんなことは当たり前に行える今の時代若い世代がどのような景色を眺めながら、どのような次元のワクワクを体験しているのか興味深かった。(力)

沖繩の大学に通うZ世代の娘には「マスメディアは報じないけど、小さなデモって実はしょっちゅうあるんだよ」と聞き、先日やっと就職が決まったZ世代の息子には「社会って今のままじゃなくて、これから揺り戻しがあるんじゃないかな」と言われた。ん？いつの間にか教えられる立場になっている。私もがんばらねば。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第69号

ホームページアドレス

<https://www.mizu.gr.jp/>

#### 発行日

2021年(令和3年)11月初版1刷

#### 企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授  
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文庫研究会  
陣内秀信 法政大学名誉教授  
鳥越皓之 大手前大学学長

#### 制作

浦本五郎  
松本裕佳  
鈴木彩乃  
青木広実  
小林夕夏  
久保悦史  
飯野真奈実

#### 編集製作

前川太一郎 編集  
中野公力 デザイン・撮影  
蔵田 豊 デザイン

#### 執筆

佐々木 聖 (pp.10-13, pp.20-25, pp.29-31)  
手塚ひとみ (pp.6-9, pp.26-28)  
前川太一郎 (pp.14-19)

#### 撮影

川本聖哉 (pp.44-49)  
藤牧徹也 (pp.38-43)  
渡邊まり子 (pp.18-19)

#### 描画

赤木あゆ子 (p.15)

#### 印刷

中埜総合印刷株式会社

#### 発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

※禁無断転載複製写転充